

による情宜に切り替えたことである。会報用の用紙を緑色の題字で印刷し、町会内の主な動きを記事にして月に一回、一〇七軒の全戸に配布した。

これの効果は驚くほどであった。それまで昼間働きに出ているため、帰宅してから家人に口頭で伝え聞かされていた町会の様子が、いつでも会報で見聞できるようになったのである。自治会の行事に対する会員の関心度がぐくんとアップした。また、地区連合町会の運動会などの模様も宣伝するので、これらへの参加者も大幅に増加することとなった。

住民の協力が得られるようになったことから役員やる気が倍増した。役員会は終始笑いに包まれ、一致団結のもとに万事を進めることができたのである。

なお、この「会報」は、その年度の船橋市自治会報コンクールにおいて、佳作に入選した。

◇
二つ目は、ランドゴルフを奨励するために、その用具を町会で一式購入したことである。

市内で盛んになり始めていたこのスポーツの大会に一度出場した私は、すっかりその魅力にとり憑かれてしまった。与えられた広場を全面使うので、一ゲームで千歩は歩くという健康的なこのスポーツは、男女や年令にまったく関係なく成績が表れるという面白さがある。

ある。ボウリングのように、ハンディをつける必要はない。現に、この秋の大会で個人優勝した鹿野さんは六八才の高齢である（末尾「緑ヶ丘自治会報」参照）。そこで、この用具を一式購入したところ、役員会の全員がその虜になってしまった。こうなれば、しめたものである。あつという間にその輪が広がり、今では常時二十名ほどが毎週土曜日と日曜日の早朝に練習に励むようになっていいる。そして今回の優勝・準優勝の荣誉なのである。

◇
今年の正月、久しぶりに我が家の全員が揃ったので、一時退院していた息子の健司を含め、ポカポカ陽気の中、町会の用具を借りて家族でランドゴルフを楽しむんだ。最初は元気がなかった健司が、競技中にホールインワンを二つも出し、跳び上がって喜ぶ姿を見せたのである。その効果は十分であった。

◇
三つ目の改革は、老人会の結成を促したことである。高齢化社会は、この自治会にもじわじわと押し寄せてきており、町会の働き手は、それらの子供達の世代に移りつつある。その子供達に面倒をみてもらっている老人は決して少なくはない。

私の老後の生き方に対する考え方は、独特のものかもしれない。しかし私は、あえてそれを説いた。

すなわち、老人は保護されるもの、弱い立場にあるものであってはならない。面倒をみてくれる子供達を今日まで立派に育てあげたのはあなた自身ではないか。子供達が親の面倒をみるのは当然の義務なのである。家の中で「老いては子に従え」などと、小さくなっていく必要はない。背筋をピンと伸ばし、堂々と生きるべきだ。そして、家の中に閉じこもらず表に出よう。老人同士が手をつなぎ、お互いに楽しむための手立てを考え、さらに、地域に寄与できることがあったら、それを実行しよう——これが私の持論である。

私は、この考えを、以前に会長を務めたことのあるAさんに打ち明けた。Aさんは、私の考えに全面的に賛意を表明し、そして、老人会の結成に奮闘してくれたのである。

老人会「緑ヶ丘クラブ」は、その年度の終わり頃に発足した。現在では三六名が結集し、月に一回の例会のほか、第三日曜日の町会清掃日には、会員の自宅の周りを除く自治会周辺の清掃を一手に引き受けている。「年寄りに掃除をやらせて——」と非難する人もいるかもしれないが、本人達は喜んで、大真面目に奉仕労働を楽しんでいるのだ。これが生きる上での活力と
いうものなのである。

◇

◇

昨年四月二一日の夜、精神分裂病に冒された息子の健司が、金属バットで我が家の窓ガラスを粉々に打ち砕くという事件を起こしたことがある。近所の人達が轟音に驚いて飛び出して来たが、両親が警察の調べを受けている間、何も言わずに飛び散ったガラスの破片を片付けてくれたのも、近所の人達であった。

私の家庭がこのような困難な事情を抱えているのを承知の上で、それでもなお、私を町会長候補に推してくれる、近所の人々は皆、心優しい住民なのである。

私は、この先何年かかるか判らない息子の病と闘いながら、この人達と共に、明るく楽しい町会を創っていききたいと、ひそかに思いを巡らせている。

(一九九五年一月・完)

◇

◇

平成十二年度の今、私は四回目の役員をやっている。まだ副会長である。そして、来年春季に定年退職しても、すぐには会長をやらなくても済みそうである。同じ人が長く務めることから生じる弊害が、この頃は囁かれている。結局は、その年に当たった役員の中から会長を選んではいけないか、という方向へ傾いている。私の「町会長候補」は、次の役員が回ってくるまでの間は、依然として「候補」のままである。

(二〇〇〇年十月・補筆)

運動会の雰囲気最高潮にしたのは最後の「町会対抗リレー」。7位でスタートした小学生でしたが、高学年のところから、ぐんぐん前の走者を追い上げ、一気に2人を抜き、さらに成人で1人抜き、アンカーの役員でもう1人抜いて、第3位でゴールする目覚ましい活躍ぶりを見せたのです。この間、町会の見物席は総立ち、「抜け〜!」の声飛び交い、抜くたびに歓声があがり、興奮のつぼと化しました。そして、大健闘の選手団は、ヤンヤの喝采で迎えられたのです。

今年の運動会もたくさんの参加をいただき、嬉しい思い出を残して終わることができました。参加の皆さん、選手の皆さん、ご苦勞さまでした。なお、町会対抗の総合成績は、15町会中、昨年より1位上がって第7位でした。

★ 優勝杯・準優勝杯をさらった!

— 秋のグランドゴルフ大会で町会始めて以来の快挙 —

またまた嬉しいニュースです。11月3日に行なわれた船橋市の体育指導委員会主催の秋のグランドゴルフ大会で、我が町会代表のヒルトップ・グリーンクラブが参加19チーム中、待望の団体優勝(Aチーム)と準優勝(Bチーム)を果たしました。Cチームも7位に入る好成績でした。また個人の部でも、鹿野氏(5カック)が優勝、酒井氏(6カック女)が3位に、酒井氏(7カック男)が4位に入賞するという快挙を成し遂げたのです。町会始めて以来の大特報に、会場は沸き返りました。

この日、18名の選手団は日頃の練習の成果を発揮しようと、勇んで試合に臨みました。平均年齢が55才という「高齢者」チームでしたが、なんのなんの、その年令を感じさせない好プレーが相次ぎ、前記3名がホールインワンを叩き出す美技を演じ、さながら「緑ヶ丘デー」とも言うべき成績を取めたのです。

これも、3年前から始められた毎週土曜と日曜日の練習の成果が結実したものと喜んでます。老いも若きも男も女も関係なく楽しめるこの軽スポーツに、皆さんも参加してみませんか。

☆ 今後の予定

- | | |
|--------|----------------|
| 11月20日 | 自治会内清掃の日 |
| 30日 | 東葉高速鉄道対策協議会理事会 |
| 12月4日 | 第5回ウォークラリー大会 |



ウォークラリーは速さを競う競技ではありません。
ゆっくり歩いて、地域の名所旧跡を訪ねましょう。

★ 走って抜いて大興奮！ — 地区連運動会は大盛況

朝から晴天に恵まれた10月9日、絶好の運動会日和です。緑ヶ丘自治会からは予定を超える70名の会員が参加しました。8時半、花火の合図と共に、ちびっこ子供会のプラカードを先頭に、堂々の入場行進です。

飯山満地区連合町会38町会のうち、今年の参加は15町会です。我が自治会は連合町会の中では小さな町会であるにもかかわらず、毎年、大勢の方の協力を得て秋の一日を思いっきり楽しんでいます。

さて、競技が始まりました。町会対抗「ムカデ競争」「満杯ゲーム」、いずれもぶっつけ本番だったので、ちょっと難しかったようですね。でも「玉入れ」では、お父さん・お母さんたちが頑張って3位に入りました。子供たちはみんな積極的に「2人3脚」などに出場し、「アメ食い競争」では顔を粉だらけにしてゴールしていました。お年寄りの方々も「宝さがし」で健脚ぶりを発揮し、「ケツアツ競争」では、お尻で風船が割られるたびに、大きな笑いが起こっていました。



「満杯ゲーム」で頑張る緑ヶ丘チーム



酒井 雅親 (さかい まさちか)

1940年10月 北海道美唄市に生まれる
1946年 9月 長崎県西彼杵郡高島町へ
1951年12月 長崎県北松浦郡佐々町へ
1960年 1月 長崎県庁に勤務
1966年 3月 通信教育で中央大学法学部を卒業
1967年 2月 東京都の学校事務職員となる
1971年10月 都学労結成に参加
2001年 3月 東京都を退職

世直し共闘

2000年10月22日発行

著者 酒井 雅親

住所 ☎274-0822 船橋市飯山満町3-1351-64

電話 047-464-4716

印刷 (株)オフィスサンライズ
